

# 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ

明朝体：共通教育科目      ゴシック体：専門科目      ※：必修科目      ◎は学習・教育到達目標に主体的に関与する科目      ○は付随的に関与する科目

学習・教育到達目標		授業科目名							
		1年		2年		3年		4年	
		前期(1期)	後期(2期)	前期(3期)	後期(4期)	前期(5期)	後期(6期)	前期(7期)	後期(8期)
A 技術者の使命感と倫理観： 建築技術者としての使命感と倫理観 を持って建築を考える能力を養う。	A1	フレッシュマンセミナー(◎)※			学外実習(○) (春休み中に実施)	インターンシップ(○) (夏休み中に実施)			
	A2							建築と倫理(◎)※	
	A3								卒業論文(◎)※
B 工学の基礎知識・能力： 建築技術を理解するための工学の基 礎能力を養う。	B1	微分積分学 A I (◎)※	微分積分学 A II (◎)※	建築の数学(◎)※					
	B2	線形代数学 I (◎)※	線形代数学 II (◎)※						
	B3	物理学基礎 A I (◎)※	物理学基礎 A II (◎)※						
C 建築の基礎知識・能力： 建築における基本的な考え方や基礎 的な建築技術を理解して応用できる 能力を養う。	C1	建築計画基礎演習(◎)※	建築デジタルデザイン論(○)	建築計画(◎)※					
	C2	設計基礎演習 I (◎)※	設計基礎演習 II (◎)※	建築設計 I (◎)※					
	C3		建築構造のしくみ(◎)※	構造力学 I (◎)※					建築振動と防災(◎)※
	C4			建築構法(◎)※	建築材料(◎)※	建築材料の科学(◎)			建築施工(◎)※
	C5				建築史(◎)※	地域環境史(◎)		都市計画(○)※	建築法規(◎)※
D 建築の高度な知識・能力： 高度な建築技術を理解して建築の設 計へ応用できる基礎能力を養う。	D1			建築デザイン(○)	建築設計 II (◎)※	建築設計 III (◎)※	建築設計 IV (◎)※		卒業設計(◎)※
	D2				環境計画 II (◎)	環境工学 II (◎)	設備計画 II (◎)		
	D3				構造力学 II (◎)※	鉄骨構造(◎)※	鉄筋コンクリート構造(◎)※		
E 自主的・継続的学習能力とエンジニ アリング・デザイン能力： 新しい建築文化や建築技術の創造へつな がる自主的・継続的学習能力およびエン 지니어リング・デザイン能力を養う。	E1	フレッシュマンセミナー(◎)※	設計基礎演習 II (◎)※	建築設計 I (◎)※	建築設計 II (◎)※	建築設計 III (◎)※	建築設計 IV (◎)※		卒業設計(◎)※
	E2								卒業論文(◎)※
F 多面的に考える能力： 幅広い視野に立って多面的に建築を 考えることができる素養を身につける。	F1	大学と地域(○)※	体育理論(○)※ 体育実習(○)※	異文化理解入門(○)※					
		統合 I (○)※	統合 II (○)※	基礎統計学入門(○)※				建築未来学概論(◎)※	卒業論文(◎)※
G コミュニケーション能力とチームで 仕事をするための能力： 建築に関する国内外の活動の場でコ ミュニケーションができる基礎能力 を養う。	G1								卒業論文(◎)※ 卒業設計(◎)※
	G2	英語 I A (◎)※	英語 II A (◎)※	英語 III (◎)※	英語 IV (◎)※	英語 V (◎)※	英語 VI (◎)※		
	G3	初年次セミナー I (◎)※	初年次セミナー II (◎)※			建築実験(○)		建築未来学概論(◎)※ 建築設計 IV (○)※	

注) A1~G3の詳細な学習・教育目標は「8. 教育プログラムにおける学習・教育到達目標」を参照